



photo 藤田佳久

「お家に居るときの様な家族の仕草や会話が、安心をあたえる。『寄り添う』ということは、そういうことなのかも知れない」

## 「手編みの猫は、なかなかのボランティア」

ひよんなことから毛糸で編んだ猫に出会いました。何とも愛らしく一瞬で癒されました。一匹編んでみて病棟のみんなにお披露目しました。手編みができるスタッフは「私も編みたい」と早々に編み始めました。しかし思う様に行かず、昼休みも編み方を教え合う声が聞こえていました。そのことが、患者さんやご家族にも広がり、編みっこが始まりました。

Aさんは、なかなか編めずに「イライラする」と言って、毛糸をほつぽり出すこともありました。でも、「編んでいると夢中になって何も考えなくていいの」とまた編み始め、お孫さんのプレゼント用に編み上げてしまいました。今では、猫から進化して、ひよこやパンダなどいろんな編み動物が増えています。皆さん「癒される」と言っていて夢中です。

編んだ猫を、病棟の窓辺に飾るといつの間にか患者さんのもとへお嫁に行きます。いつも目を閉じて寝ている時間が長い方も、ふと目を開け、猫を抱きしめたりあやしたりします。その効果なのか少し食事も食べるようになり

ました。ある若い患者さんは、猫を見て編み方を確かめながら丁寧に編んでいます。手編みの猫は、なかなかのボランティアぶりです。

最近、毎週行なっている「喫茶の時間」でのボランティアの動きも変わってきました。単にコーヒーを運ぶだけじゃなく、患者さんの隣に座り、世間話をしたり自然に歌が出てきたりします。患者さんやご家族の過ごした時代の話や歌が広がり、楽しそうな弾んだ声が聞こえてきます。スタッフがもたなす「喫茶の時間」も良いですが、ボランティアとの交流の時間は、病院に居ることを忘れさせてくれるようです。患者さんの中に、折り紙を教えることができるボランティアさんが来ていることを知ると、その時だけは病室から出て喫茶に参加する方もいます。

吉村 良子・文

函館おしま病院  
ホスピス病棟看護師長



よしむらりょうこ  
社会福祉法人函館厚生院函館  
厚生院看護専門学校卒業。  
平成16年函館おしま病院勤務。  
平成22年12月より同病院ホスピス病棟看護師長に就任し、現在に至る。